「はじめての絵本プレゼント事業」始めました

申問すこやかこども家庭センター☎0176-51-6792、0176-51-6797

市では、絵本の読み聞かせを通して親子の絆を深め、子どもの笑顔や成長につなげるため、絵本を進呈します。

対象　４月１日以降に出生し、出生日から本市に住民登録があり、居住している新生児および乳児（１歳未満）の保護者

内容　対象者への乳児家庭全戸訪問（赤ちゃん訪問）で、５冊の絵本の中から希望の１冊を進呈します。

詳しくはこちらから▶

赤ちゃんと家族の皆さんへ

市から絵本のプレゼントです。絵本をひらく時間が、笑顔とぬくもりにあふれたひと時になりますように。まだことばを話せなくても、声やリズムは赤ちゃんにしっかり届いています。

読み聞かせの時間を楽しんでくださいね。

読み聞かせのメリット

赤ちゃんに絵本の内容は難しいけれど、読みながらゆったりふれあう時間の楽しさが伝わり、親子の絆が深まります。一緒に絵を指さしたり優しい声でお話しすると、喜びや安心につながります。おやすみ前の習慣にするのもいいですね。



赤ちゃん、お誕生おめでとう！市の妊産婦指導員が訪問します

みんなで男女共同参画の輪を広げよう　男女共同参画市民情報誌ゆっパル特別版

６月23日～29日は「男女共同参画週間」今年のキャッチフレーズは“あなたらしさが社会のチカラ”

問企画調整課☎0176-51-6725

–INTERVIEW–

40年以上「食堂上高地」を切り盛りしてきた中田千代（なかたちよ）さんへ、その「原動力」についてお話を聞きました。

お店を始めたきっかけなどを教えてください

夫は昭和42年に五戸町でお店を始め、その後十和田市に移住しました。焼山地区で開店したのは昭和46年で、今年で55年目を迎えました。

「食堂上高地」の名前の由来を教えてください

夫は、長野の上高地のホテルで修業をしていたことがあり、奥入瀬の美しい景色を眺めると、よく似た上高地の景色が思い出されるので夫が名付けました。

お店のことや子育てで大変だったことはありますか

夫が亡くなる前から夜の営業は私が担っていましたし、夫からも「お前ならできる」と言われ、お店を辞めることは考えていませんでした。

夫が亡くなった後、二カ月後にはお店を再開させました。当時娘たちは高校生、中学生、小学生でしたが、三女はその時から店を手伝ってくれています。再開後は工事現場の皆さんへ食事を提供する仕事を頂いたり、近くのホテルの従業員やバスの運転手さんも食べに来てくれたり、多くの皆さんに支えられました。人との巡り合わせにも恵まれ感謝しています。

夫・良司さんの思いで大切にしていることはありますか

夫は地震や大雨などで困っている人がいると、お店を開けてごはんを準備したり炊き出しを行ったり、困っている人へ手を差し伸べる人でした。

私も夫の思いを継ぎ、東日本大震災のときは、ガスや水が使えたので、ろうそくの明かりでお店を開きました。携帯電話が普及していますが、今でもお店の電話は災害時でも使えるものを置いています。

これからの目標などを教えてください

最近は海外からのお客さんも増えています。周りの人が協力してくれて英語のメニュー表を作ったり、英語での接客も頑張っています。今年で79歳になります。体のことを考えながら細く長く続けていきたいです。



中田 千代 さん

新郷村出身。洋裁学校に通い東京で就職後、20歳で夫・良司さんと結婚。食材の切り方などから料理の勉強を始め、37歳から一人でお店を切り盛りしている。

食堂上高地（大字法量字焼山64-177）
営業時間　午前10時～午後２時30分（午後2時ラストオーダー）
定休日　月・木曜日（その他不定休）